

研究機関：広島大学

研究課題名	胆道再建術後における予後・合併症に与える影響についての検討		
研究責任者名	広島大学大学院医歯薬保健学研究科消化器外科・移植学 教授 大段秀樹		
研究期間	2018年8月29日(倫理委員会承認後)～ 2026年12月		
対象者	2010年1月以降に、当院で胆道再建を施行した患者		
意義・目的	<p>胆道再建後は肝内胆管内圧が上昇しやすく、胆道感染を含めた術後合併症リスクが高い。(Farid SG, et al. Br J Surg. 2016 Feb;103: 249-56.) (Aoki S, et al. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2017 Feb 14) そのリスク因子を後ろ向きに検討することは臨床的意義が高く今後の治療方針に役立つと考える。本研究は胆道再建後の予後因子や術後合併症の危険因子を明らかにすることで、そのハイリスク患者を選別し、リスク管理や予防策を行う指標を作成することである。</p>		
方法	<p>1) 研究方法 2010年1月以降に行われた胆道再建術を施行した患者を対象とする、後ろ向き研究。予後因子・合併症危険因子をLog-rank検定やFisher検定で単変量解析し、Coxの比例ハザードモデルによる多変量解析を行う。患者因子、手術因子、術後因子を検討項目として、単変量解析及び多変量解析を行う。(個人を特定可能な情報は解析に用いません)</p>		
共同研究機関	なし		
試料・情報の管理責任者	所属 広島大学 消化器・移植外科 職名 教授 氏名 大段 秀樹		
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形		

助教

祐輝